特殊報

３　病　第　１　９　号
令 和 ３ 年 ８ 月 ６ 日

関係各位

京都府病害虫防除所長
（　公　印　省　略　）

病害虫発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので、送付します。

発生予察特殊報第１号

病　害　虫　名　　トマト黄化病
病原ウイルス名：　トマト退緑ウイルス（*Tomato chlorosis virus*：ToCV）
作　　物　　名　　トマト
発　生　地　域　　京都府南部の一部施設

１　発生経過

令和３年６月、京都府南部の２地域の施設内でトマトの葉に退緑及び黄化症状を示す株が認められ、農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼したところ、府内では未発生の「トマト退緑ウイルス(*Tomato chlorosis virus*：ToCV)による「トマト黄化病」と確認された。

本病は国内では平成 20 年に初めて確認され、近隣の滋賀県、兵庫県等、現在では 22 都県で確認されている。

２　病徴

発病初期には葉の一部の葉脈間が退緑及び黄化し（写真１）、症状が進展すると病徴は葉全体に及ぶ。病徴は株の下位から中位葉にかけて現れやすく（写真２）、えそ症状が現れる場合もある（写真３）。これら症状が激しくなると、株の生育が抑制され減収する。なお、この病徴は生理障害の苦土（マグネシウム）欠乏の症状に類似し、外観からの判別は困難である。

３　病原ウイルスの特徴

（１）病原はクリニウイルス属のウイルスで、タバココナジラミ（バイオタイプ B 及びバイオタイプ Q）、オンシツコナジラミにより媒介される（写真４）。
（２）ウイルスを吸汁したコナジラミは数時間から数日間ウイルス媒介能（半永続伝搬）を保持する。
（３）クリニウイルス属のウイルスは、経卵、汁液、種子及び土壌伝搬はしないとされている。
（４）本ウイルスの感染は、ナス科、アカザ科、キク科、ゴマノハグサ科、シソ科、ナデシコ科、フクロソウ科、リンドウ科で確認されている。

４　防除対策

（１）発病株は直ちに抜き取り、ポリ袋等に密閉してほ場外に持ち出し、適切に処分する。

（２）育苗期から媒介虫であるコナジラミの防除を徹底し、苗から持ち込まないよう注意する。

（３）施設の開口部に 0.4mm 目以下の防虫ネットを展張し、コナジラミの侵入を防ぐ。

（４）コナジラミの発生源となるので、施設内及び周辺の雑草は徹底して除去する。

（５）コナジラミを周辺に分散させないため、栽培終了後に全株を地際から切断または抜根し、施設を密閉して死滅させる。

（６）コナジラミの防除に際し、薬剤感受性低下を防ぐため、同一グループの薬剤の連用を避ける。

写真１　葉の一部の葉脈間が退緑・黄化

写真２　下位から中位葉に進展した病徴

写真３　下位から中位葉にかけての黄化・えそ症状

タバココナジラミ

成虫

幼虫

オンシツコナジラミ

成虫

幼虫

写真４　媒介虫のコナジラミ